

事業報告書

平成28年度



設置者	学 校	法 人	藤 田	学 園	
幼稚園名	藤 田			幼 稚 園	
理事長・園長 藤 田 道 信					
所在地	静岡県富士市大淵2964番地の1				
定員数	300名	認可クラス数	年少	年中	年長
			3	3	3
		学年定員数	90名	105名	105名

理事長挨拶

本学の使命は、建学の精神に基づき運営され、幼児教育を通じ人間社会の幸福をつなげ・ひろげていく架け橋となるよう、研鑽努力することにあります。

教育内容の充実発展・施設設備の整備充実・保護者の教育費の負担軽減・家庭教育の充実を運営の柱とし計画運営を目指しています。その為には、学園を取り巻く社会環境や内部環境を分析した経営を行わなければなりません。本学の発展は本質を見失わず、着実に歩みを進めたいと願っています。法人の役員・教職員、そして保護者の皆様とともに、子どもたちの幸福と健やかな成長を願い挨拶とします。

建学の精神

人間の一生の中で無限の可能性に富み、人格形成に大きく影響をおよぼす幼児期の教育は何事においても大切な時期である。家庭教育、社会教育の与えるものは、幼児の生涯を左右するといっても過言ではない。集団生活の中で、幼児としてより多くの遊びの中で体験を積み重ねさせ日常の基本的な生活習慣と社会性を養い、心身ともに健全なる発達を助長することが教育の場であり、使命である。その責任は無限であり、やがて次代を担う若者としてたくましい人間育成の理念と信念をもって、日々自ら研鑽に努め教育道をもって地域社会の先覚に努めることにある。

法人の概要

(1) 学校法人

学校法人名	藤 田 学 園
学校法人認可年月日	昭和 ・ 平成 52 年 3 月 12 日
学校法人登記年月日	昭和 ・ 平成 52 年 3 月 12 日
設置する園名	設 置 認 可 年 月 日
幼稚園	藤田幼稚園

(2) 役員の数

(単位：人)

選任区分	定数	実数	任期
園 長	1 人	1 人	4 年
評議員	2 人	2 人	4 年
学識経験者	3 人	3 人	4 年
	人	人	年
	人	人	年
	人	人	年
理事計	6 人	6 人	年
監事	2 人	2 人	4 年

(3) 評議員の数

(単位：人)

選任区分	定数	実数	任期
教職員	3 人	3 人	
卒業生	5 人	5 人	4 年
父母	人	人	年
学識経験者	5 人	5 人	4 年
	人	人	年
	人	人	年
	人	人	年
評議員計	13 人	13 人	4 年

幼稚園の概要

教育目標・方針	【富士山のように】 1. じょうぶでねばりづよい子 1. ゆたかなこころの子 1. どりよくしてつくりだしていく子 1. すすんでとりくめる子 こどもを第1に 個の尊重と集団生活の調和 時代認識と将来性 子どもの健やかな成長を教師、保護者、地域社会が連携協力し支えます。 思いやり感謝の気持ちを大切にします。公共性を重んじみんなでルールマナーを進んで守ります。普遍である本質を守り時代の変化を認識します。
特徴	いきいきと幼児が生活できる環境を常に思考し実践をしていく。

幼稚園

学級名	満3歳児			3歳児			4歳児			5歳児			学年計
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計	
つくし	5	7	12										12
すみれ				12	11	23							69
たんぽぽ				14	10	24							
れんげ				12	10	22							
ゆり							13	11	24				70
ばら							12	11	23				
ひまわり							12	11	23				
ふじ										18	14	32	62
さくら										16	14	30	
もも													
合計	5	7	12	38	31	69	37	33	70	34	28	62	213
	男	女	学年計	男	女	学年計	男	女	学年計	男	女	学年計	

※満3歳児入園は3歳児クラスにて対応

教員数	園長	副園長	教諭	助教諭	養護教諭	講師	臨時教諭	その他	育児休業					合計
	1		10						1					12
職員数	事務長	事務主事	事務員	用務員	パート運転手	調理員	警備員	パート事務	保育補助	預かり保育員				合計
	1				1			1	1	1				5
27年度卒園児	男	女	計		建物面積			1113.35			㎡			
	25	24	49		園地面積			2914.93			㎡			
施設名	保育室	遊戯室	預かり室	防災倉庫	ひだまりの森			9593			㎡			
	9	1	1	1										

事業方針	事業の推進	・園児ひとり一人の成長発達の課題を踏まえ教育内容を構成した。 ・集団生活の中で様々な体験を積み生きる力の源泉を育む活動した。 ・家庭に対して、子育て支援の充実とともに家庭教育の重要性を伝えてきた。 ・幼児期に大切な育ちについてまずは保護者そして地域社会へ訴えた。 ・地域社会との関わりを大切にし、教育経営を推進し学園運営を実直に進めていった。 ・宣伝広報を充実し、幼稚園の理解を深めらる事業を展開した。 ・満三歳児保育をすすめ拡充した。 ・マイナンバー制度の規則を制定し施行した。 ・園則の見直しを行い、保育料の科目変更を行った。	
	執行事業	①園舎施設の老朽化また改修が必要な施設の整備(遊戯室LED・保育室6棟LED・塗装)した。 ②教育教材の見直しと整備(木琴・机・椅子等)のを実施した ③ひだまりの森の整備(富士林研による木製遊具の設置・畑の整備)した。 ④防災・防犯。保健・衛生など危機管理と安全教育を実践した。 ⑤園児の福利厚生の充実に努めた。 ⑥スクールバスは今後の整備の課題となった。	
	具体項目	内 容	
1	教育計画	教員の資質向上と実践	幼児の育ちについて教育実践を通じよく理解しあい計画をした。 園内外の研修会において個々の資質向上に努めた。 感性を磨くようチャレンジしてきた。
		個に即した教育	園児一人ひとりの心身の成長・発達(能力、感性)を育むよう、個々の課題に対しきめ細やかな指導・支援を実践してきた。また、障害等、専門家と協力し、保護者との共通理解を深め適切な指導支援に心がけ実践した。
2	研究計画	研究活動	園全体の教育テーマを決め、そのテーマから広がる創造していく総合教育を展開するよう、研究していくたが、共通のテーマの理解の不足が目立った。今後の課題とした。
		自己点検評価	教師自らが、自己点検・評価をし自己研鑽に励んだ。 外部アンケートや保護者から意見徴収し、課題を見出し反省し実践にとり組んだ。
3	地域連携計画	地域連携	地域コミュニティの主催する行事、防犯防災などの事業、地域教育機関との連携を図った。文化祭・消防祭りなどの参加、研究会研修会等の参加、淵っ子くらぶ等教員が地域貢献をした。富士山を踏まえた事業に協力した。
		幼少連携	小学校との情報交換、子ども達の交流など機会を使って園児と児童の交流を実践・各小学校の入学卒園式へお祝い・行事の検討などを行い、小学生や教員の来園を実施した。
4	施設設備計画	教育研究	園児の教育活動を充実する為の設備整備を進める。機器備品の状態を確認し必要性に応じ廃棄・整備した。管理点検に心掛け耐久性の向上や美化に努めた。(机・椅子・楽器等)
		施設設備	必要に応じ、教育環境設備の対応を図ると共に、園舎施設の老朽化また修繕について計画性をもって対応した。特に遊戯室・保育室6室のLEDを図り、経費節減のため、園舎及び外回りの塗装を園長・事務長でおこなった。また、サクラの木を大幅に剪定・砂場の藤棚の整備を実施した。
5	管理運営計画	事務・園務運営	事務内容の分担性により、事務の効率化に努めた。 自己点検評価、個人情報、情報公開にも適切に対応した整備を行った。
		労務環境	女性の働く場であり、家庭をもちながらの労働環境を整備し、教育の充実・子育て支援の充実に繋がる相乗効果を目指した管理のあり方を推進してく。マイナンバー制度に対応した規則を整備し、管理を始めた。
6	財務計画	留保金の確保	無駄な経費を削減するよう努め留保金の確保を行いたいが園児数が減少しており厳しい状況下であるが、減価償却は確保している。 教育内容の充実・園児の福利厚生経費は園の屋台骨であるため充実した。
		計画的運営	教育環境の充実と活気を持ち、選ばれる幼稚園を目指しながら、子ども子育て新制度・幼児教育振興法の対応を十分に検討し、将来必要不可欠になるだろう財務において長期的計画をもって運営しているが、今後の方向性を見出すまで 困難を記している。さまざまな情報を収集したい。しかし、基本は子どもの最善の利益と家族の幸せに貢献することである。

1.財務状況

【資金収支計算書】

科 目	決 算 額
収入の部	
学生生徒等納付金収入	46,765,833
寄付金収入	62,000
補助金収入	40,763,500
資産運用収入	101,214
資産売却収入	0
事業収入	14,957,935
雑収入	3,602,946
借入金等収入	0
前受金収入	1,535,000
その他の収入	1,309,436
内部資金収入	0
資金収入調整勘定	△ 5,020,000
前年度繰越支払資金	21,404,245
収入の部 合 計	125,482,109

支 出 の 部	
人件費支出	69,271,115
経費支出	27,515,475
借入金等利息支出	0
施設関係支出	0
設備関係支出	453,360
資産運用支出	5,592,357
その他の支出	2,413,457
内部資金支出	0
資金支出調整勘定	△ 3,416,000
次年度繰越支払資金	23,652,345
支出の部 合 計	125,482,109

【財産目録】

科 目	金 額
基 本 財 産 計	264,923,863
運 用 財 産 計	26,692,345
資 産 の 部 合 計	291,616,208
固 定 負 債 計	1,323,000
流 動 負 債 計	6,101,259
負 債 の 部 合 計	7,424,259
差 引 純 資 産	284,191,949

【事業活動計算書】

科 目	決 算 額
教育活動収支の部	
学生生徒等納付金	46,765,833
寄付金	62,000
補助金	40,763,500
事業収入	14,957,935
雑収入	3,602,946
教育活動収入合計	106,152,214
人件費	69,271,115
経費	33,813,177
教育活動収支差額	3,067,922
教育活動外収支の部	
受取利息・配当金	101,214
その他教育活動外収入	0
教育活動外収入合計	101,214
借入金利息	0
その他教育活動外支出	0
教育活動外収支差額	101,214
経常的収支差額	3,169,136
事業活動収入計	106,253,428
事業活動支出計	103,084,292
当年度収支差額	3,169,136

【貸借対照表】

科目	本年度末
資産の部	
固定資産	264,923,863
流動資産	26,692,345
資産の部合計	291,616,208
負債の部	
固定負債	1,323,000
流動負債	6,101,259
負債の部合計	7,424,259
基本金の部	
第1号 基本金	305,085,002
第4号 基本金	7,713,672
基本金の部合計	312,798,674
繰越収支差額	△ 28,606,725
純資産の部合計	284,191,949
負債及び純資産の部合計	291,616,208

園のコメント

少子化による園児数減による収入減が進む。しかし、教育の資質向上のための人材確保から人件費の比重は大きい。また教育の充実を図る為には効果的な費用対効果を進めなければならない。本学の納付金は市内私立幼稚園においてもっとも低い事も原因である。経営理念である保護者負担軽減とよりよい教育の振興を目指す志をもって学園運営を進め、有能な人材と教育環境の向上をもって社会に貢献する事を使命としている。人材でいえば現在はここ数年昇給もなく身を投じて熱心に教育に打ち込んでくれる教職員に感謝している。今もxとも経営者として心痛める課題である。教員の身分向上について内外的に努力していく事が管理者の使命であると自覚する。本学は常に教育環境の充実を図り、園児や地域に教育的また地域コミュニティに貢献する目的を持ち、教職員のマンパワーの献身的努力で取り組んでいる。今後も園児確保や施設充実を計り、計画経営に傾注していくことを恒常的な目的とし、また、必要不可欠な取り組みである防災防犯・健康安全教育の充実についても経費的に取り組んでいきます。新制度の内容と地域と家庭のニーズを研究するとともに、何よりも子どもの最善の利益を追求する教育施設として使命を果たすべく努力していきます。

平成 28 年度 学校関係者評価書及び自己評価総評

(改善方策及び結果公表シート)

平成 29 年 3 月 10 日 まとめ

1 幼稚園の教育目標

人間の一生で無限の可能性に富み、人格形成に大きく影響を及ぼす幼児教育は何事においても大切な時期である。集団生活の中で幼児としてより多くの遊びの中で体験を積み重ね「富士山のように」1.じょうぶでねばりつよい子 2.ゆたかなこころの子 3.どりよくしてつくりだしていく子 4.すすんでとりくめる子を目指し、やがて次代を担う、たくましい人間、豊かな心をもって大きくはばたく人間育成を目標とする。

2 本年度の重点課題（学校評価の具体的な目標や計画）

- 園児ひとりの成長発達を助長するため、適当かつ適切な環境を整備し教育実践がされているか。
- 教師は常に自己研鑽し資質向上に努めているか。
- 幼稚園と保護者は、子どもの成長発達の課題を共有し理解し合い協力しているか。
- 園児達が地域の中で認められ守られる活動を推進しているか。
- 子育て支援の充実につとめているか。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理 由	関係者評価
① 保育の計画性	B	園務は教育計画書によって分掌化され全ての学年からの代表者で構成されたプロジェクトがあるため計画性はスムーズではあるが。また教育計画上、経験者の教員ほど反省点が高い状況は計画性に対して顕著な姿勢で臨んでいりことの証しであり今後も常に研鑽したい。	A
②保育のあり方 幼児への対応	B	個々の幼児の発達課題をとらえ支援・指導をするよう努め教育効果向上を図り、内面の育ちに目的をおいて保育の在り方を検討し実践してきた。時間のかかる作業だが丁寧に日々情報を共有化してきた。	B
③教師として資質 能力、適正等	B	教師が必要とされる資質向上を図り、自主的な研修参加を進めた。園外での研修は長期休みで対応できるが、日々の園内研修は困難であった。園長がその都度、場面を見ながら指導や情報の確認を行い教師集団の資質向上に努めてきた。	B
④保護者への対応	A	保護者からの苦情はなく、改善点はより良いものになるような気のついた事柄への励ましや提案がされ、本園の保護者の幼稚園教育に対する理解の高さや協力性には感謝の一語である。今後も日々の保護者との対話に大切に実践していきたい。	A

⑤地域の自然や社会との関わり	B	本年度も幼稚園の資源である、人材・施設を地域に提供し貢献を図っている。ひだまりの森を富士林業研究会の協力を得ながら活動を広げた。まちづくり協議会に笹場(富士山名勝)事業対応や芸術村へ貸出している。地域コミュニティや幼年消防の活動、絵画などの出点などできる範囲で関わってきた。しかし真新しいものではなく、地域に向けて子育て支援的な活動を十分に考えて行きたい。	A
⑥研修と研究	B	園内研修の時間の確保が難しい。子育て支援等を担う事が増大し、教員の就業時間にその研修時間の確保が今課題である。研究課題やその方法手法の工夫をし、研修研究の充実を図りたい。	B
経営評価		経営部門を園長が評価している	

結果・評価 A 十分達成されている B 達成されている
 C 取り組まれているが成果が十分でない D 取り組みが不十分である

4 本年度の重点課題の総合的な評価結果

園目標である「自分の考えや思いを表現できる子」をテーマとし教育保育を実践した。また、その実践結果をホームページや配布物等を使い、教育活動や事業の主旨また成果、今後の課題などを公開し。子ども達の育ちについて保護者や地域社会に発信した。ひだまりの森を中心に子ども達が自ら関わり知識を求め、その知識を使って創意工夫し課題や向かって取り組み、心情・意欲的・忍耐・達成感を味わい非認知力の育成を目指した。また大淵地区行事や公的機関・その他支援者の協力のもと、地域社会で子ども達を見守り育てていけるよう幼児の姿を通じて幼児教育の重要性を伝える地域連携を図った。

幼稚園教育を実践するにあたり、教職員研鑽・保護者との理解・地域連携は大きな要因であるが、しながら子育て支援を充実させることで教職員の負担が増え、研修や研究時間の確保が課題となっている。また、保護者は幼稚園の理解者として協力をしてくださり感謝の一語である。この信頼を裏切らないよう教職員はあらためて心得、自己研鑽し恩返しができるよう努める。しかし、その上でこれからの経営で子育て支援の充実は大切かつ重要な課題であることから研究を進めていくことが大切である。

5 今後、取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
子ども子育て新制度の対応	地域性・地域の実態を十分に踏まえ検討する。また今回年度末に行った子育て支援アンケートから集計した内容について教職員で検討し研究しながら、子育て支援や移行については慎重に考えて行く。 しかしながら、本学は真の幼児の幸福と人間社会に於いて変化に惑わされない確かな不変たる人間教育の基本を柱とし実践していく幼児教育機関として行く事は将来に渡って信頼される園運営を目指していく。

教職員の資質向上	研修では子どもを見る目・子育て支援の在り方を中心に学び、夫々の経験度にあわせた研修を受け研鑽に努める。また、チーム保育により教員同士の信頼をもとに互いに高め合うようにする。10 年余の経験者が今回退職となったが新規採用教員を始め経験者採用により新鮮な意気込みで望む
子育て支援の充実	子育ての課題について研究し、時代に必要な子育て支援の在り方を摸策しながら事業として実践していけるように制度も学びながら、公共団体との連携を深めて行く。
ひだまりの森の教育活動の充実と地域貢献	環境教育の実践の場として大いに活用する。また地域社会とのつながりの強化を図り『ひだまりの森』での実践を考えていく。子どものとって有意義な体験や経験ができる貴重な施設である。その管理を引き続き行う。

6 学校関係者評価委員会からのコメント

- ・昨年度予定した施設面でできなかった修繕箇所である遊戯室屋根の塗装を 29 年度は行う事。
- ・こども園とかいろいろ聞くが今後藤田幼稚園はどんな施設として貢献できるか考えて行ってもらいたい。
- ・公立幼稚園の入園者が激減している事も聞いている、この地域で何が必要か検討してほしい。
- ・先生方は本当に一生懸命に仕事をしてくれている。子どもを第一として保護者との関わりも上手してくれていると思う。しかし、もう少し幼稚園で頑張ってる事を公開したり伝達できたらもっともっと幼稚園が好きになってくれると思う。そんな所を考えて実践したらいいと思う。しかし、いつも思うが他園に比べて良い評判を聞くのでうれしい。
- ・富士山が世界遺産となり、笹場や富士市芸術村とも動線を同じくする地域にあり、富士市だけでなく世界にもつながる場所である、ひだまりの森の活用は幼稚園の財産で有り、子ども達の健やかな成長をさせる場所であるのでこれからもひだまりの森の整備や使い方を研究してもらいたい。
- ・教材教具・施設も老朽化してくると見た目が心配、また安全性も確保するとなるとやはり時代に合わせた教具の更新し、また廃棄する時はすぐ捨てないで付加価値のある物に利用したり幼稚園で修理をするなども大切な管理だと思う。ただ新しくではなく使い道を考えて整理していったほしい。
- ・大淵で生まれる子どもの人数が少なくなっている。大淵がどうなっていくのか心配です。子どもを産む育てることの大切さを幼稚園で地域に発信することも良い事だと思う。
- ・小学校・中学校・老人施設等や大淵地域はいろいろな学校や施設があるのでその連携を考えて行く事はいいことだと思う。地域の中の幼稚園としてますます発展してください。
- ・昨年度の課題であった LED 化を進めたようなので完全に全部できたと思うので、今後も目指されていってください。環境や経費削減に役立ちます。
- ・園の道側や事務所の壁などの汚れが気になるので対応したほうがいいと思います。きれいなかわいい幼稚園のイメージがあるので、またサクラの枝を切ったので寂しい感じですが、今後ながくサクラが保たれたらいいですね。環境整備も大変ですね。